

教育学部ダイバーシティ・ステートメント

岩手大学教育学部は、「多様性の尊重」と「誰もが学び、成長し、活躍できる教育環境の実現」を基本理念とし、ダイバーシティ推進を重要な責務と位置づけます。次世代を担う教育者の育成機関として、以下の2つの取り組みを重点的に推進します。

多様性を尊重したインクルーシブな学びと教育環境の整備

教員養成系学部として、性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが尊重され、共に学び、教え合う教育環境づくりを推進します。そのために、多様な教育的ニーズを持つ学生を受け入れ、そのニーズに応じた適切な合理的配慮を進めるとともに、ジェンダー平等や多文化理解などを促進するカリキュラムや学修支援を整備します。また、女性教員の採用・登用促進、社会人経験があり教職を志す学生の受け入れなどを通じ、教育・研究の質と多様性を高めます。

学校現場や地域との協働による学びの多様化

現職教員や社会人を対象とした研修を継続的に実施する体制を整えます。附属学校や教職大学院、地域教育機関との連携を深め、地域社会の教育的課題解決に貢献します。

現状分析

本学部では、学生の約6割が女性であり、教職を志す多くの若者が学んでいます。一方、2025年5月1日現在の教育学部教員における女性の割合は29.6%、女性教授の割合は14.8%となり、以前に比べると向上してきましたが、全国平均や本学の人文社会科学部との比較においても改善の余地があります。

また、社会人経験を持つ学生の割合は限定的であり、社会人を対象とした研修に関しては、これまで現職教員向けの研修等を中心に一定の実績がありますが、今後はより体系的かつ持続的な仕組みづくりが求められます。

目標(2027年3月末まで)

女性教員比率を30%以上とし、女性准教授から教授への登用を1名以上実現することを目指します。

教育学部主催または共催による研修及び講習会を2件以上実施し、地域教育現場と連携した研修体制を確立します。

今後の課題

障がいのある学生・教職員に対する支援体制の強化、多文化共生教育の実践、ジェンダーに配慮した制度設計など、包括的なダイバーシティ推進のためには全学的連携と継続的な見直しが必要です。これらの課題に対し、関係機関と協力しながら取り組んでまいります。

2025 年 6 月

教育学部長 清水 茂幸